

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600502		
法人名	合資会社 若葉		
事業所名	グループホーム 若葉		
所在地	羽島郡岐南町へ異性2丁目139番地		
自己評価作成日	平成22年12月25日	評価結果市町村受理日	平成23年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600502&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の身体、生活状況に合わせた福祉機器(車椅子各種、電動ベッド、体圧分散マット、歩行器)を無料で貸し出し、家族との外出時にも気軽に使用してもらっている。隣接する接骨院にて外部の方との交流もありお茶を飲みに来られたり、レクなどにも気軽に参加されている。また利用者の方も接骨院を利用され会話を楽しんでおられる。面会時間や電話などに制限が無い為近所の方や友人が家族、親族の方と訪問され、頻りに面会や外出もある。地域主宰の介護教室などにより一般住民の方が訪問される機会も多く地域交流も活発である。入居後の身体管理は看護師が責任をもっておこなっている為主治医、家族との連携もとれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で喫茶店等を営んでいた経営者は、開設当初より、地域住民と自分たちの老後について語り合うことが多くあった。「住み慣れた地域で、馴染みの関係を保ちながら老後を迎えたい」という強い望みから、ホームの立ち上げに到った。利用者には当初の仲間も多く、また、隣接する接骨院を利用する地域の方が気軽に訪問したり、利用者も接骨院に通うなど、地域住民との身近な交流拠点になっている。管理者の思いから、利用料は家族がホームに直接届けるシステムがとられ、家族が毎月訪問することで、ホーム・家族・利用者の連携もとられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人として尊厳されるに加え、地域交流に励み、地域に密着した暮らしができるようにする。施設内や名札の裏に明記し常に思いに留めるようにし、毎月の定例会においても理念が実施されているか確認している。	「地域交流に励み、地域に密着した暮らしができる」を共通の理念としている。「人命尊重、人権尊重」をケアの目標に、ホーム内や名札の裏に明記し、朝のミーティング、定例会議等で確認しながら、人として尊厳のある暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時近所の方との挨拶を始め自宅の庭の花なども観賞させてもらっている。地域介護教室、老人会の方の訪問や、喫茶店、ふれあい祭りなど積極的に参加している。	自治会に加入し、地域の情報を得たり、ホームの行事等に招くなど、地域との連携は良好である。地域の行事には、ホームの多目的ホールが使用され、ホームの利用者も参加したり、ホームの行事に地域の老人会が参加するなど交流が盛んである。	多目的ホールを活用し、小中学生を対象とした福祉体験等を検討しており、その実現に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	接骨院を利用されている方や直接相談に来られる方、また介護教室(社協)などの場を活用し、認知症の方の理解や支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に実施している。役場の職員、自治会長、民生委員さんをはじめ、地域の方にも参加してもらい、家族や利用者の方も催し物などを含めながら気軽に意見を出していただき取り入れるようにしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、自治会・民生委員・行政などの参加を得ている。会議当日に行事を組み込む取り組みがあり、火災訓練・介護学習・音楽療法など、共同で行事が行われている。火災訓練では、参加者から、どのような支援をすればいいかなどの意見が出され、改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岐南町地域包括支援センター運営協議会のメンバーの一員として参加しており、担当者とも情報交換しながら連絡を密にしている。他の方のアドバイスも頂くなど協力体制を整えている。	管理者は、行政の様々な委員会の委員などを引き受け、現場の実情を伝えたり、情報交換などで緊密に連携している。また、困難事例などでは、課題解決に向けて話し合うなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会、勉強会、研修などを通して拘束についての知識及び理解を深め何が身体拘束につながるのか毎日の申送り時確認しながら、抑圧感のない暮らしの支援を行なっている。	身体拘束について方針を明文化し、拘束のないケアを実践している。全職員で、身体拘束の弊害について研修を重ね、常に人権を尊重し、利用者の思いを大切にすることを大切に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を通して何が虐待につながるのかを認識し個々のスタッフが他のスタッフの言動に注意を促すように努め、ホーム内での虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム若葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修(外部、内部)を行っている。現在金銭管理を生活支援員の方に協力して頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明はゆっくりわかりやすく丁寧に説明している。契約時だけでなくその後も不安や疑問が生じる場合には、24時間対応できること、また直接会うなど十分な理解他納得を得て頂く様対処している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は事務所にて個別対応し、家族の方は来所時または電話での24時間対応にて意見や要望を伺うようにしている。外部者へは運営推進会議を通して改善実施等を報告している。	利用者からは、日々の話し合いの中で、要望等を聞いている。また、家族の訪問時や、24時間の電話受け付け体制で意見・要望を聞くようにしている。サービス改善等の意見があり、職員会議や運営推進会議に図り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会においては、毎回スタッフからの意見を傾聴し改善につなげている。普段から気づきを大切にその都度気軽に意見が交換できるよう管理者とスタッフ間の距離を密接にしている。	管理者は、月例会議で職員から意見や情報を聞く機会を設けている。やりがいのある職場環境づくりの意見や、使い勝手の悪いキッチンの改修など、職員の意見を参考に、改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々職員の相談相手となれるよう気軽に声かけしている。家庭状況を考慮しながら勤務配慮している。やりがいを持ってもらえるよう外部研修に参加したり、毎月目標を持つこと、また十分な休息が取れることなど環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を持ち、外部研修に積極的に参加してもらうようにしている。定例会では現場に即した勉強会を行い、新任スタッフについては担当者を決めて指導してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会から常に最新の情報を取り入れている。岐南町主催の勉強会また意見交換会に出席し、また近隣のグループホームへの催しにも参加しながら質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、家族の方だけでなく出来る限り本人にも訪問して頂き、家族の方と一緒に食事を摂るようにしてもらっている。ゆったりとした雰囲気作りに努め不安なことなどを傾聴しサービスに反映できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から、家族の方の思いや現状などに耳を傾け、不安や要望など考慮できるように努力している。入居後も何時でも連絡相談が出来るよう24時間対応サービスを説明し、活用してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が入居を希望される場合、直に決断せず、よく傾聴した後、介護保険は利用されているのか、また在宅でのサービスは可能ななどを話しあったり、本人さんと一緒に訪問してもらい本人の意向を聞いた後話し合いの場を設け他のサービスを選択してもらうことがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方から、昔の暮らしぶりや戦争体験など聞くことにより物を大切にすることや生活の知恵(例えば食材の活用)を学んでいる。利用者の方一人一人を尊敬し喜怒哀楽を共有できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族及び親族、友人などの訪問は曜日や時を選ばず訪問できるよう説明している。ほとんど毎日訪問して共にお茶を飲み、笑顔で語り合う息子さんや孫やひ孫との外出が出来るようになった方など家族の方の協力が上手く生かされるようになった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人親戚の方の訪問を促し電話や手紙などでも連絡が取れるよう支援している。なじみの医者、美容院など関係が途切れないように支援している。	隣接する接骨院に来た友人・知人が訪れたり、利用者が接骨院に通うことで、馴染みの関係が継続されている。さらに、ホームの多目的ホールを利用する老人会の人達とも、途切れない関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	挨拶から始まり、一緒の話題の中に自然に入りこめるように誘いかけることにより、和気藹々とした雰囲気が見られる。利用者同士の中で車椅子を押したり食事の時優しく声かけされたりなど小さな配慮が自然に行なわれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	寝たきりの全介助の方であったが毎日車椅子に乗車しフロアーにてミキサー食を全介助しながら摂取しておられた。入院後24時間点滴となり病院生活となったため家族の方の転院先の相談にのったり、利用者と共にお見舞いに行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩時、その人によって歩くペースが違い、行きたいところも違うため本人の意見が尊重されるようにしている。入居前寝たきりの方も車椅子に乗り、まわりの人と一緒に会話が楽しめるようになったり、他の入居者を通して自由に意見が言えるようになってきている。	日々の会話の中で、思いや希望を聞いて把握している。思いが表現できない利用者には、問いかけながら表情の変化を汲み取っている。個々の思いは、職員間で共有し、安心のあるケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしを少しでも出来るよう配慮し、その人に今どんな支援が必要なのか、どんな学びをスタッフが得られるかを気づきを大切にしてい。特にその人の出来る力やわかる力の発見にはスタッフが率先し、その気づきを共有して伸ばしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活歴を大切にしている。編み物の好きな人や談話を楽しまれる方、買物や散歩を好まれる方、絵を書くなど趣味をおこなわれるかた、安静時間を必要とされる方など職員がその方の状況を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居申し込みの段階で、本人・家族の意向を聞き取り、アセスメント表等に記載し、初回の介護計画につなげている。また、職員は毎月状況の見直しをしながらそれぞれの気づきや意見が反映できるようにしている	本人・家族と日頃の関わりの中で、意向・要望を聞いている。全職員による毎月のモニタリングで、気づきやアイデアを出しながら介護計画を作成している。状態に変化があれば、関係者と話し合い、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが日頃から介護計画に目を留めて、計画に沿って出来たかを見直したり、気づきがあればその情報を話し合えるようにしており、そうした発見が介護計画の見直しにつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ベッドや車椅子また歩行器などその人に合った最善の福祉用具を無料で貸し出している。家族と共に外出される際歩行器や車椅子なども無料で貸し出し外出が気軽に出来るよう支援している。接骨院にて残存機能の活用、及び他の人との交流もたのしまれる。		

岐阜県 グループホーム若葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターや民生委員の方による定期的訪問あり。社協の喫茶店を利用、介護教室による一般住民の方との交わり、老人会の方による訪問など地域の方に気軽にきていただける場を設けたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先している。入居前のかかりつけ医との関係が継続できるようにしている。連携は看護師を通して行き常に情報交換に努めている。	入居前にかかりつけ医の説明を行い、入居前からのかかりつけ医を継続する場合は、原則受診には家族が同行している。ホームの看護師が、かかりつけ医と連携を取り、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が入居前のかかりつけ医との関係が継続できるようにしている。病院に出向き医療に関する連携がとれるよう情報を共有にしている。常に家族の方へも説明し職員にも早期発見、看護師への報告が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状態が不安定となり、入院が必要になった場合、本人の不安を取り除くようつとめ、家族の方にも情報をつたえ、入院先の医師、看護師に入居生活情報をつたえる。入院まで付き添う。退院時は院内相談員との連携をとり早期退院に向けて積極的にとりくんでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームにおける「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」という資料を基に早い段階から本人及び家族と野話し合いの場もうけている。その都度本人、家族の意思を常に尊重し、看護師が医師との情報交換を密に行い、職員全体でケアできるように努めている。	重度化や終末期におけるホームの対応は、指針が作成されている。ホームの看護師が24時間対応し、段階的に関係者と話し合いを十分持ち、方針を共有しながら、終末期の体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会や個別会議時利用者の現在の状態を把握している。また日頃から、職員全体が急変時例えば意識レベルの状態などの勉強会を行なっている。またハイムリック法などの実施訓練も行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施をすることにより、どのように避難するかを確認している。(職員利用者、家族)周りに住居が無い為、警察、消防署、隣接する接骨院、自治会長さんはじめ町内の方々に協力をえられるよう働きかけている。	訓練を重ねることにより、自治会・地域住民・家族・職員全体に、避難経路・安全確保などの知識が高まっている。近隣の住民も参加を得るなど幅広い訓練が実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の尊厳を重んじるよう、入社時や毎月の定例会にて管理者より訓戒あり。特に傷つくような言葉遣いや、対応が無いが各職員がお互いにきをつけている。また、排泄や入浴などのプライバシーの保護に努め、居室内にも必ずノックして入るようにしている。	利用者に対する言葉かけは優しく、安心して何でも話せる関係を大切にしている。どんなに忙しくてもスキンシップを欠かさず、「大切な人ですよ」と言う関係が保たれている。利用者の誇りを損ねないように個々に合った対応が行われている。	馴れ合いによる当事者には気づかない言動が、訪問した他者の目には誤解を招く場合もあるため、言葉かけや対応について再確認されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	総てを支援するのではなく、その人の状況に合わせた支援が出来るよう、介護計画や支援状況を振り返りながら職員全員で話し合いながらおこなっている。普通の暮らしは自己決定の出来る暮らしであることを職員が思いに留めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその人に合わせたペースを大切にしている。散歩を好む人は午前だけでなく午後や夕方にも出かけたり、レクよりも自分の時間を楽しみたい方には、そのことを優先していただいたりして有意義な日々を少しでも送って頂ける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の中には化粧ボックスを自宅から持ち込んでこられ毎日きれいにお化粧される方もおられる。いきつけの美容院に家族と出かける方やスタッフが送迎することもある。洋服なども広告を見たり外出して直接選ぶようにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立のとき何を食いたいのか、また昨日は何を食ったかなどをきくようにしている。調理においては、仕事を分担し、野菜の下処理、味付けを行なってもらっている。職員も利用者の方と共に並んで食事を楽しんでいる。あと片付けも協力しておこなっている。	利用者と職員は、同じテーブルで同じ物を食べており、味付けなどの話題が多く、食事中も笑い声が絶えない。次のメニューを決めたり、利用者から同じ食材を用いた別の料理を教えてもらうなど、食事への関心を高め、大切な支援活動の一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食摂取量のチェックを行い水分摂取もこまめにすすめ体重測定、摂取状況を常に把握している。食べるのに時間がかかる人また最初は自己摂取できるものの中であらかじめ決めてしまう人には食器スぺーンなどを変えるなどして介助行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの出来る人は、朝晩歯磨きを行っていたり、入れ歯の方は毎晩ポリドントを使用している。充分歯を磨けない人は始め本人にしていたり、その後スタッフがやっている。口腔ケアに気を配り常に清潔に心掛けている。		

岐阜県 グループホーム若葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを各職員が理解している。一人では歩けない人や尿意の無い人なども声かけしトイレ誘導することにより排泄を促している。失禁時も尊厳を保てるようプライバシーの保護に努めている。	排泄記録により、一人ひとりの排泄パターンを職員が共有している。できる限りトイレ誘導を行い、入居当初よりトイレでの排泄が増えている。自尊心に配慮し、尿意のない人も、さり気なく声かけて誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動を進めており、毎日排便チェックをおこなっている。運動は天気の良い日は必ずその人の体調に合わせたコースにて散歩に出かけたりしている。食物は根菜類の摂取寒天を利用したおやつなどをこころがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方には職員が代わる代わる声かけしたり、次の日に入浴してもらうこともある。仲の良い方同士で入浴されたり男性職員の介助を拒否される方は女性職員が行なっている。入浴剤から選んでもらったり自分の愛用する石鹸やシャンプーも利用し楽しんでもらっている。	週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望に添った入浴介助を行っている。仲良しの場合は、誘い合って入浴している。入浴を拒否する利用者には、タイミングや言葉かけに工夫しながら、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後、自室内で横になってテレビを見る方や、ホールの椅子に座って日に当たりながら休息を取られる方などそれぞれ過ごしやすい状況をこころがけている。寒いときは電気毛布を活用するなど安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行っており、職員にも薬の目的や副作用、及び本人の小さな症状の変化にも気づけるよう説明している。早期発見、情報の伝達対処がスムーズに行なえるようにし、主治医への連絡も密に行い治療や服薬調整にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を大切に日々の生活の中で楽しんでもらっている。編み物の好きな人はセーターを編んだり縫製をやっておられた方には縫い物をお願いしたり、絵を書くなど趣味をいかしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物などの希望があるときはその都度外出できるよう支援している。普段はいけない所(グランドホテル屋敷会岐南祭り、喫茶店など)も家族の方に声かけし同伴してもらったり、家族の方と共に結婚式やお墓参り、外出、外食などをたのしまれている。	天気の良い日は散歩に出かけ、地域の人から声をかけてもらっている。家族の協力により、外出の機会も多くある。利用者の家族と共に、希望する別の利用者も買い物・祭・喫茶店等に同伴するなど、積極的に外出している。	

岐阜県 グループホーム若葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いのもと個人的に金銭を所持しておられ、買物時そのお金で個人用のおやつや本を買う事が出来る。金銭の確認も本人と家族、職員が確認できるようにしている。金銭を預かりノートに記帳し毎月管理者家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が希望される場合、電話や手紙など何時でも気軽にやり取りできるように支援している。電話の場合、皆のなかで話しても良い事柄と事務所でこっそりかけるときな、どそのときの本人の状況に合わせて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光は、明暗が調節できるので、その時々に合わせて活用している。生活観や季節感を取り入れる為居間や居室に花を飾ったりしている。どの部屋も温度差のない様行動しやすいうようにし、暖かみのある生活感あふれる場所となるよう工夫している。	利用者と職員が創り上げた手作りの作品が掲示され、利用者一人ひとりの自慢の共用空間である。照明器具、温度調整など細やかに配慮されている。トイレも広く、ゆったり車椅子で利用でき、利用者は居室より共用の居間に集まり、居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間には、いつも利用者の方が集まり団欒がある。その他事務所や多目的ホール、エレベーター前などにも椅子を置き、個人的な語らいの場を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人のなじみのあるものをご家族と利用者話し合ってもらい、持ち込めるものを配慮してもらっている。入居後家族の方が本人と話し合いの後、テレビや机など持って来られることもあって本人が暮らせるように工夫してもらっている。	法人は、福祉用具の事業も兼ねており、最新型の福祉ベッドが設置されている。各居室に収納ケースがあり、整理整頓がされている。使いなれたテーブルや鏡などが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう家族と共に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド、車椅子、歩行器など本人に合った最善の福祉用具を利用してもらっている。見当識障害のある方には、洗面所やトイレの場所などを言葉によって明示し識別している。段差をなくし転倒を予防したり、廊下やトイレ、風呂にも手すりがあり、自立をうながしている。		